

# ニンジン

## 夏まきの上手な発芽と管理のポイント

ニンジンにはベータカロテンを豊富に含み、粘膜強化や免疫力アップ、老化防止などに役立ちます。品種改良が進み、カロテン含量が高く、芯までよく着色、サラダにも向くなど品質が格段に高まり、家庭菜園での魅力が増大してきました。

これからがまきどきの夏まき作型は、秋の適温条件（18〜20度）で育つため作りやすく、中秋から冬にかけて長期間収穫できるので、実益の上がお薦め野菜です。

### 種まき

種まきの適期は7月上旬（関東南部以西の平たん地、暖地は中〜下旬）となるので、発芽と初期生育は天候の難しい時期に当たりまです。そのためこの作型では発芽をそろえて、初期の生育を順調に進めることが大きなポイントです。

畑の準備として、前作はなるべく早めに片付け、残渣（さ）を残さないようきれいにし、少なくとも20日前ぐらいまでに完熟した細かな堆肥と油かすなど有機質肥料、少量の化成肥料を全面にまき、深さ20cmぐらいによく耕し込んで



キリトリ線

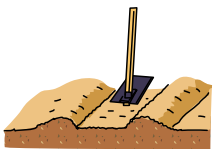
おきましよう。元肥はやや控えめにし、施肥の主体は盛んに育ち始めてからにすることです。

ニンジンが生長して肥料に当たると枯れてしまうので、高さ10cm位の所に種をまくのがポイントです。手順として、まき溝はくわ幅で、底面が平らになるよう丁寧作り、土が乾いていたらジョウロで溝

全面に、溝をほみ出さないようにたっぷりと灌水し、底面が平らに落ち着いたら種まきします。水が溝からはみ出すと、覆土するとき土がぬれていて困ることになります。

覆土は種子がやっと見えなくなる程度（5〜7mm）の薄めとします。覆土した後、くわの背で軽く鎮圧し、種子を土になじませておきます。

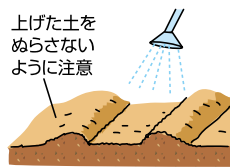
まき終わった



くわの背で軽く押さえるように鎮圧する



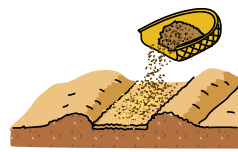
1cm間隔ほどで満遍なく種をまく



ジョウロでまき溝全面にたっぷり灌水する

板木技術士事務所 ● 板木利隆

ら溝全面に細かく砕いた完熟堆肥または切りわらで薄く覆っておく



細かく砕いた完熟堆肥または切りわらで薄く覆っておく

上げ、地面の固結を防ぎます。乾き防止に腐葉土などもオススメです。材料は発芽しても取り除く必要はありません。発芽するまでに乾燥したら灌水を心掛け、乾き過ぎないように注意します。

### 間引き

発芽ぞろいし、本葉2〜3枚ぐらいい育った頃間引きます。初期は軟弱なので、ある程度密にして共育ちさせることが大切です。本葉5〜6枚になったら第2回の間引きで、10〜12cm株間（品種差あり）の1本立ちとします。間引きを数回に分けながら、株間を調整していくのがポイントです。

間引きした後にはすぐ追肥すること。雑草が大変生えやすいので遅れずに除草することもニンジン作りの大切なポイントです。 ※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

JAグリーンおすすめ!



## ニンジン栽培したいあなたに...

夏まきはこの4種類！  
お好みで選んでみてください。



〔肥料〕  
化成肥料 8-8-8  
そさい2号



〔農薬〕  
マロン乳剤：  
キアゲハ・アブラムシなど



ダイアジノン粒剤：  
播種前に。



ネキリムシなどの土壌害虫に効果があります。



ネマトリンエース粒剤：  
播種前に。



センチュウに効果があります。